2024年度 春季英米文学科 講演会のお知らせ

日時：2024 年 6 月 28 日（金曜日）　15:00 開場、15:30 開会
（終了予定時刻　17:30頃）

場所：東松山校舎 60周年記念講堂

講演者：生駒 久美 先生（東京都立大学）

講演タイトル：「マーク・トウェイン、フレデリック・ダグラス、アメリカ奴隷制」

＊ 当日は、入場の際に受付で「2024 年度春季英米文学科講演会 出席証明書引換券」を受け取ってください。講演会終了後にこの「引換券」を受付に提出して、「2024 年度春季英米文学科講演会 出席証明書」を受け取ってください。

講演要旨：

本発表では、19 世紀アメリカを代表する白人作家マーク・トウェインと黒人作家フレデリック・ダグラスの作品を比較しながら、アメリカ南部奴隷制の下に生きる、社会の周縁に置かれた人々の声に着眼する。トウェインの父は黒人奴隷を所有し、幼少期のトウェインは父が奴隷に鞭打っていたことを記憶している。それに対しダグラスは、元黒人奴隷であり、自分の叔母が主人から激しく鞭を打たれたときの様子を自伝のなかで語っている。このように奴隷所有者の息子トウェインと元奴隷のダグラスは対極的な立場であった。しかしトウェインの義理の父ジャーヴィス・ラングドンは、黒人逃亡奴隷を助ける地下鉄道の支援者であり、フレデリック・ダグラスはラングドンが逝去した際に葬儀に駆けつけている。またトウェインもダグラスの演説に興味を持ち、ダグラスの支援をしていた。トウェインとダグラスの関係性を視野に入れながら、それぞれの代表作における奴隷制下に生きる人々に焦点を当てる。人間を動産と扱う奴隷制下において黒人奴隷がどのように生き延びたのか、そしてその様子がどのように表象されているのかについて、それぞれの作品を見ながら検討する。

生駒 久美 先生 **プロフィール**

現在、東京都立大学人文社会学部人文学科英語圏文化論教室准教授。2013 年 4 月から 2021 年 9 月まで大東文化大学文学部英米文学科の専任教員を務める。その後も非常勤講師として本英米文学科で教鞭を取り続ける。専門は、19 世紀アメリカ文学、文化。最近の研究活動としては、2023 年 9 月にマーク・トウェイン研究を推奨する Quarry Farm Fellowship を Mark Twain Circle から受賞。2024 年 11 月には米国の研究誌 *Mark Twain Annual* に論文“Jim’s Optimism, Huck’s Pessimism : Transbellum Perspectives in Adventures of Huckleberry Finn”が Pen State University から刊行予定。また 2024 年刊行予定の『大東文化大学創立 100 周年記念多文化共生又は社会における多様性に関する総合研究論集』（仮題）に「マーク・トウェイン、帝国、白人男性性」を寄稿している。